

(証券コード 7702)

株式会社 ジェイ・エム・エス

2024年3月期 第2四半期 連結決算の概要

2023年11月7日

連結：増収減益

売上高 31,248百万円(+1,272百万円)
営業利益 △320百万円(△275百万円)

売上： 国内は抗がん薬曝露防止の薬剤調製・投与クローズドシステムが好調に推移するも、血液透析装置の需要減退もあり微減、海外は需要回復により血液・細胞領域が継続伸長、円安による円貨換算額の増加も加わり増収

利益： 原材料費や電力費の高騰に伴い国内消耗品を中心に一部価格転嫁を進めるものの、需要拡大に備えた海外拠点の労務費や、研究開発費の増加もあり減益

システム別売上高

血液・細胞： 需要回復により海外主力の成分献血用回路や血液バッグが継続伸長

輸液・栄養： 国内で薬剤調製・投与クローズドシステムが好調に推移するも、栄養セットや医療用手袋が減少したほか、北米向け翼状針の減少で減収

地域別売上高

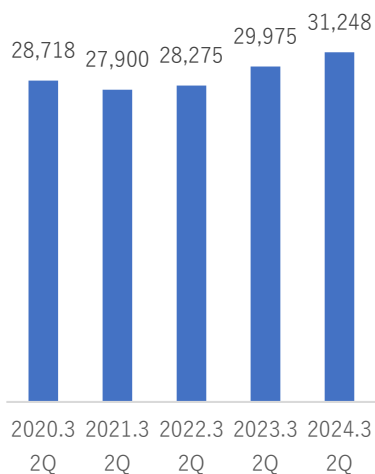
アジア： 血液バッグのほか、中国で血液透析装置や透析機械室装置が増加

日本： 薬剤調製・投与クローズドシステムやニードルレスアクセスポート付輸液セットが増加したものの、血液透析装置の需要減退もあり微減

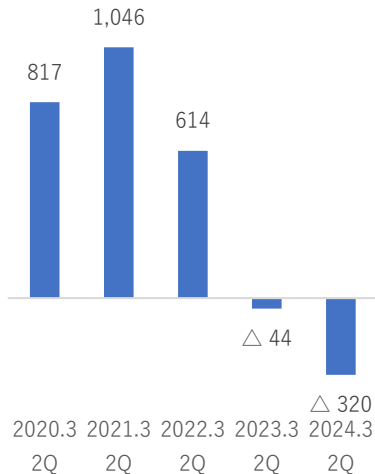
(単位：百万円)

	2023年 3月期 2Q	2024年3月期 2Q		対前期 増減額	対前期 増減率
		公表予想	実績		
売上高	29,975	32,400	31,248	1,272	4.2%
営業利益	△ 44	350	△ 320	△ 275	—
経常利益	56	400	△ 135	△ 191	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 68	300	△ 258	△ 190	—

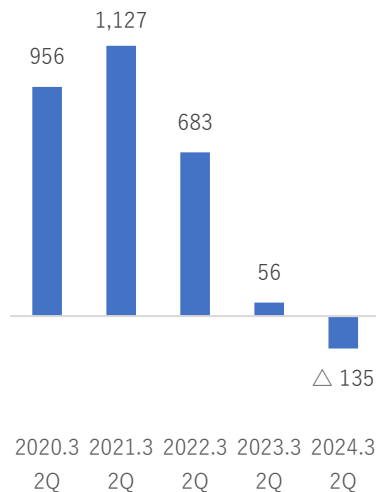
売上高



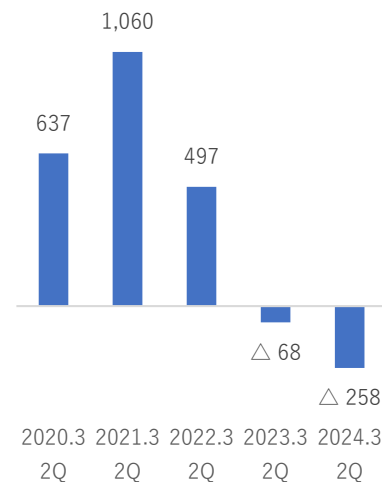
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する
四半期純利益



セグメント業績（拠点別、経常利益ベース）

日本：	薬剤調製・投与クローズドシステムが好調に推移するも、栄養セットや医療用手袋のほか、顧客の在庫調整により欧州向けA V F針（血液透析用針）が減少し減収、原材料費や電力費の高騰に伴い消耗品を中心に一部価格転嫁を進めるものの、研究開発費の増加もあり減益
シンガポール：	需要回復により成分献血用回路や血液バッグが増加、円安による円貨換算額の増加も加わり増収を押し上げ、増収効果はあるものの、原材料費の高騰や需要拡大に備えた労務費の増加に加え、棚卸資産の廃棄処理もあり減益

（単位：百万円）

		2023年 3月期 2Q	2024年 3月期 2Q	増減額	増減率
日本	売上高	21,361	20,784	△ 576	△ 2.7%
	利益	△ 89	△ 101	△ 12	—
シンガポール※	売上高	10,515	11,008	492	4.7%
	利益	216	△ 194	△ 411	—
中国	売上高	1,878	1,859	△ 19	△ 1.0%
	利益	56	△ 22	△ 78	—
フィリピン	売上高	1,668	1,889	220	13.2%
	利益	45	△ 36	△ 81	—
ドイツ	売上高	1,870	2,024	154	8.2%
	利益	71	243	172	241.5%
その他※	売上高	2,527	1,880	△ 647	△ 25.6%
	利益	△ 47	△ 41	6	—

※シンガポールは、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。

※その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

(単位：百万円)

輸液・栄養領域



薬剤調製・投与クローズドシステムやニードルレスアクセスポート付輸液セットが増加したものの、栄養セットや医療用手袋のほか、北米向け翼状針が減少



売上高

外科治療領域



人工心肺回路や血液濃縮器は堅調に推移したものの、人工心肺装置の減少により微減



売上高

透析領域



血液透析装置は国内の減少を中国向けに補填し増加するも、顧客の在庫調整により北米向けA V F針が減少



売上高

血液・細胞領域



需要回復により成分献血用回路や血液バッグが増加、国内では白血球除去フィルター付血液バッグが増加

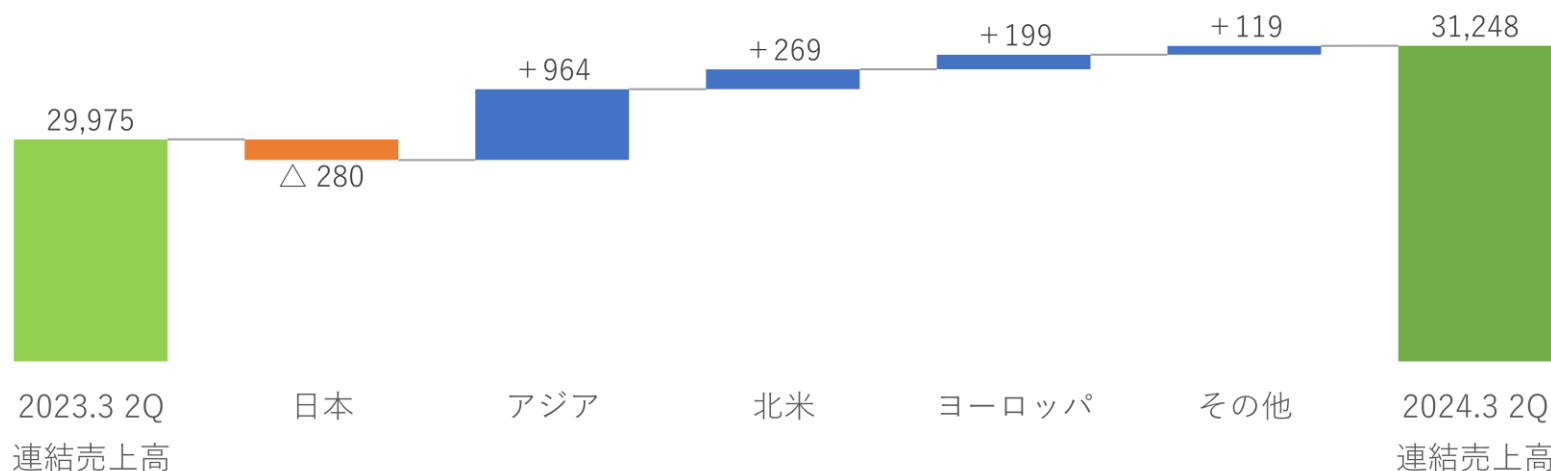


売上高

日本は血液透析装置の需要減退により減収、海外は顧客の在庫調整により北米向け A V F 針が減少するも、需要回復による成分献血用回路、血液バッグ、血液透析装置の増加により海外各地域で増収

(単位：百万円)

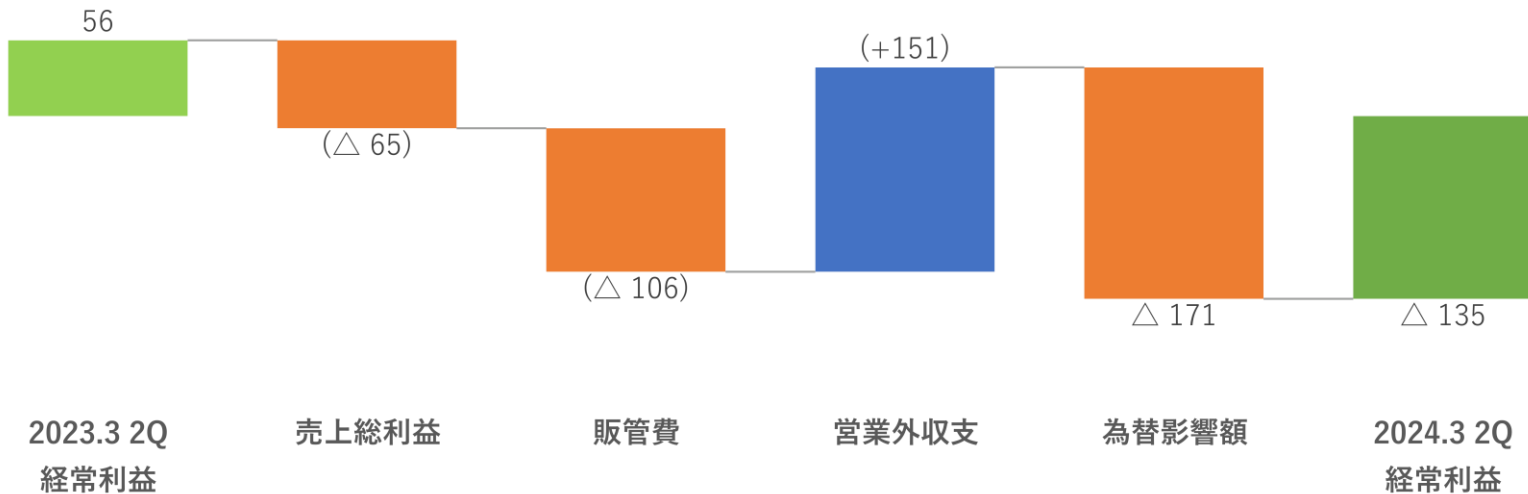
	2023年 3月期 2Q	2024年 3月期 2Q	増減額	増減率	売上高 構成比
日本	18,832	18,551	△ 280	△ 1.5%	59.4%
アジア	4,530	5,494	964	21.3%	17.6%
北米	3,282	3,552	269	8.2%	11.4%
ヨーロッパ	2,748	2,948	199	7.3%	9.4%
その他	581	700	119	20.6%	2.2%



増収効果に加え、消耗品を中心に一部価格転嫁を進めるものの、原材料費や電力費の高騰のほか、需要拡大に備えた労務費の増加で売上総利益は微減。研究開発費や販売活動に関する費用が増加、営業外では持分法による投資利益を計上、為替変動は利益不利に作用

(単位：百万円)

※ () は為替の影響を除く



為替レート (期中平均)

	米ドル	ユーロ	シンガポールドル
2023年 3月期2Q	133.97 円	134.25 円	96.55 円
2024年 3月期2Q	141.00 円	145.79 円	104.85 円

当第2四半期連結累計期間の実績を踏まえ、前回公表した2024年3月期の通期連結業績予想を修正しました。

(単位：百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期		対前期 増減率
		前回予想	今回予想	
売上高	63,740	67,000	64,500	1.2%
営業利益	724	1,000	100	△ 86.2%
経常利益	586	1,100	400	△ 31.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	281	800	100	△ 64.4%

※業績予想の修正にあたっては、前提となる為替レートを、
1米ドル=145円、1ユーロ=152円、1シンガポールドル=107円 としております。

- 売上：** 透析領域が低調に推移するも、注力分野の薬剤調製・投与クローズドシステムや需要回復の血液・細胞領域の伸長により増収を見込む
- 利益：** 原材料価格やエネルギー価格の高止まりに加え、需要拡大に備えた労務費の増加や、為替変動も不利に働き、減益を見込む
引き続き収益改善に向け、原価低減を更に推進、効率的な事業活動による経費低減のほか、物価高騰に伴う価格転嫁を進める

環境認識

- 原材料費の高騰や保護貿易政策の拡大など、大きく変化する外部環境を見据えたESG経営を推進することが求められている
- 特に先進国では、在宅医療など、高齢化の進行によりキュアからケアへ病気と共存しながら生活の質（QOL）を向上させる必要性が高まってきている

中期経営戦略

※2024年度から始まる中期経営計画を策定中

基本方針

収益構造の改革

投下資本効率を踏まえたグループ収益構造の抜本的見直しにより体質改善を図るとともに、国内外の市場環境に適応した事業戦略を遂行し、安定的な利益創出を実現する

グローバル化の推進

拡大する海外需要の取込みに向けて経営資源の重点配分と体制の強化を図り、顧客課題を解決する力を高めて、グローバル展開を加速する

重要な4つの取組み

- ・ 事業ポートフォリオマネジメントの強化
- ・ 構造改革による経営基盤の強靱化
- ・ グローバルな事業収益の拡大
- ・ ESG経営の推進

経営指標の目標を定めたうえで、中期経営戦略にある基本方針と取組みに沿って長期的耐久性を備えた会社へ変革を図っていく

2023年10月

自動腹膜灌流用装置「APD装置PD-Relaxa」の販売開始

腎不全患者さんが在宅で行う腹膜透析療法※を支援するための装置を11月より販売開始します。デザインや使いやすさの追求に加え、遠隔通信機能を組み込むことで、安心安全な在宅医療を推進します。

(※ 腹膜透析療法：腎不全患者の血液浄化療法の一種)

2023年10月

自動腹膜灌流用装置「APD装置PD-Relaxa」が「2023年度グッドデザイン賞」を受賞

患者さんや介助者のQOL（クオリティーオブライフ）向上を目指した、ハードウェアとソフトウェアの総合的なアプローチが高く評価されました。



2023年10月

JAXA 一般競争入札「定型化細胞培養装置 クイックコネクトディスコネクト（QCD）の製作」落札のお知らせ

当社のクローズドシステムの技術が国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟の細胞培養装置の製作に採用されました。



人と医療のあいだに…

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。